

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームおいでませ		
所在地	山口県山口市大内御堀832-2		
電話番号	083-925-3786	事業所番号	3570300628
法人名	有限会社 タカノホーム・スイート		

訪問調査日	平成 21 年 4 月 27 日	評価確定日	平成 21 年 8 月 19 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	6 人
職員数	12 人	常勤 5 人 非常勤 7 人 (常勤換算 7.7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額 21,000 円			
	内訳	光熱水費 11,000円	管理費	10,000円

(4) 利用者の概要 (3月31日現在)

利用者数	6 名		男性	1 名	女性	5 名
	要介護1			要介護4	1	
	要介護2	1		要介護5		
	要介護3	4		要支援2		
年齢	平均 91.3 歳	最低	86 歳	最高	96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 柴田病院 おさばファミリークリニック 歯科 長崎歯科医院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

地域との関係を特に大切にしてきた開設当初からの地道な努力がようやく実を結び、今年もりんご狩りや餅つきなどのホームの行事には、沢山の地域の方が参加されています。また避難訓練の共同実施や、非常時にもすぐに駆けつけてくださるような良好な地域との関係ができています。利用者の介護度が年々重度化されていく中で、職員は利用者や家族の思いをととても大切にし、ホームでできる最善のサービスをいつも実施できるよう心がけておられます。

(特徴的な取組等)

民家を改修した家庭的な環境の中で、その人らしく暮らせるように支援されておられます。利用者のよりよい暮らしを実現するために、本人の思いを大切にしたい介護計画を作成するよう努力されています。特に、月に2回行われているカンファレンスでは、1回目にモニタリングを中心に、課題やケアの状況、今できていることなどを話し合い、2回目には、1回目の内容と利用者、家族、主治医などの意見を併せて、今後どう介護計画に反映させていくかを職員全員で検討しています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果では、取り組みを期待したい項目は特にありませんでしたが、職員や運営推進会議で結果報告を行い、現状に満足することなく、より一層のサービスの質の向上に努められておられます。

(今回の自己評価の取組状況)

昨年と同様に、自己評価書は職員全員で記入し、皆で話し合っており、管理者がまとめておられます。今年は、特にひやりハット報告の改善に努め、事故防止への取り組みを強化されています。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催し、メンバーは、自治会長、民生委員、福祉委員、市議会議員、近隣住民、老人クラブ会員、市地域包括支援センター職員、家族、施設職員で、利用者の暮らしぶりや行事報告、外部評価報告、地域からの情報などで意見交換をし、サービスに活かしておられます。

(家族との連携状況)

年4回発行のホーム便りを送付し、毎月送付する請求書に、写真入りの近況報告、行事案内、衣類の交換依頼などを添えて送付したり、面会時や電話等で、日々の様子や健康状態を伝え、意見や要望を聞くようにされています。家族はよく面会に来られ、利用者の誕生日には、家族を交えての交流行事が開かれています。

(地域との連携状況)

毎年、秋穂の民家にみかん狩りに招待され、デイサービス利用者や地域の方と一緒に出かけたり、りんご狩りや餅つきなどのホームの行事に、子供会や地域の方も参加されています。餅つきは近所の若いお父さんも手伝われています。利用者は、いろんな行事や散歩などで地域の人と交流しています。自治会に加入し、清掃等は職員が参加されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開設当初から「尊厳や自己決定を大切に、家庭的な雰囲気の中で、住み慣れた環境で、その人らしく日常生活を送ってもらえるように支援します」という、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念はホーム内に掲示しており、管理者と職員はミーティングなどで理念の共有を図り、実践に向けて日々取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、職員は溝掃除や草刈りなどに参加しており、毎年行われているみかん狩りには利用者も招待されている。花見やりんご狩り、餅つき等のホームの行事には、子供会や地域の方も参加され、交流が深まっている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員共に外部評価を実施する意義を理解しており、自己評価についてはケアの振り返りの場として捉えて全職員が各項目を記入し、話し合い、管理者がまとめている。今年はヒヤリはっと報告の改善によるサービスの質の向上を目指している。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、利用者の状況、サービス内容や行事、外部評価の内容や取組状況の説明・報告を行い、参加者から意見、助言等をいただきながら、サービスの向上に努めている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	山口市介護サービス提供事業者連絡会に加入し、学習会で市から説明を受けたり、問い合わせや課題の相談などで行き来し、施設便りも届けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年4回発行のホーム便りに利用者の暮らしぶりや、ホームの行事、職員の異動などを載せて報告をしており、訪問時や電話等でも、日々の様子や健康状態を報告している。また、毎月送っている請求書とも併せて、利用者の近況報告を行っている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の訪問時や電話、運営推進会議等で、意見や要望などを聞いており、その内容を運営に反映させている。苦情相談窓口及び担当者、苦情解決責任者、外部機関、第三者委員は明示しており、苦情処理の手続きも明確に定めている。玄関には意見箱も設置してある。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤5名、非常勤7名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応できるようにしている。職員の急な休みには、話し合いで勤務調整している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員と利用者が馴染みの関係が続けられるよう離職や異動は必要最小限に抑える努力をしている。新規採用職員は、約1ヶ月間重複勤務をして利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人研修には積極的に参加してもらっており、現任職員には、勤務経験や段階に応じて受けることが出来るよう配慮されている。職員は、資格取得のための学習も意欲的にしており、働きながらのトレーニングを行っている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や支部研修会等に参加している。また、リーダー研修での施設見学やスタッフ同士の交流など、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前から家族とよく相談しながら施設見学やデイサービスを利用してもらい、他の利用者や職員と一緒に過ごす中で、ホームの雰囲気徐々に馴染めるような関係づくりをしている。</p>	
dei			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>干し柿づくりや餅のみみ方、漬物の漬け方など、食事作りを通して職員が利用者から学ぶことが多く、一緒に行く家事などを通して支えあう関係を築いている。時には、利用者から「大変じゃねー」と気遣ってもらうなど、日々の暮らしの中で喜怒哀楽を共にしている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>家族からの情報や生活歴の把握に努めると共に、日頃の関わりの中で、利用者の行動、表情、会話の中から希望や意向を把握するよう心がけている。特に、ひなたぼっこや散歩などでふっともらした利用者の思いがけない言葉などは、毎日の記録に残すようにしている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスを月2回開催し、1回目は、モニタリングを中心に話し合い、2回目は、本人や家族、主治医、担当者の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画は3か月に1回見直しをしている。サービス状況のモニタリングは毎月行っており、利用者に状況の変化が生じた場合は、随時関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>帰宅願望の強い利用者には、一緒に家を見に行ったり、ドライブをするなど本人の状況に応じた対応を心がけている。また、医療機関への送迎や付き添い、理美容院の送迎、買い物等の支援もやっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在の協力医療機関はかかりつけ医として利用者や家族に全員納得してもらっており、月1回の往診のほか緊急時にも対応してもらっている。協力歯科からも入れ歯の調整などの訪問をしてもらうなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合における話し合いの場を主治医や家族、関係者ともつように考えており、ホームとしても出来る限りは、その人の思いに寄り添い、最善を尽くせるような対応を心がけている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシー保護に関する研修内容を職員全員に報告するなど、日頃から利用者の誇りやプライバシーを損ねないように常に気を配って対応している。記録類は事務室に保管しているが、更に、パソコンのFDなどの個人情報の取り扱いにも注意が必要である。	・記録類の保管の工夫
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝食時間は起床時間に合わせて、自由に食事が出来るようにしたり、行事を行う場合でも、参加したくない人には無理強いしないよう、できる限り本人のリズムや主体性を尊重するように心がけている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	カロリーや栄養バランスを考慮し、利用者の好みに応じた献立を立てるよう工夫しており、職員は同じテーブルで同じものを食べながら楽しめるよう支援している。調理の下ごしらえや配膳、片付けなども利用者の力に応じて一緒に行うようにしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は基本的には隔日だが、夏期には、毎日入れるようにしている。入浴時間は15時から17時頃までで、一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる場合には、清拭等に対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の希望でもある温泉旅行や、みかん狩り、クリスマス会、餅つきなどの楽しみごと、利用者の得意な干し柿づくり、かんぴょうづくり、塗り絵やポスターづくりなど利用者が活躍できる場面づくりをして、日々の生活の張り合いとなるよう支援を行っている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のいい日には出来るだけ散歩に出かけており、利用者一人ひとりの希望や状況に合わせて、ドライブ(季節の花見、みかん狩り)、近くのスーパーへの買い物など外出を楽しめる支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに努めている。特に、スピーチロックや、かかりつけ医と相談して眠剤などなるべく薬を使用しないようなケアを心がけている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、できるだけ鍵をかけないように心がけており、鍵をかけることについての弊害も職員は十分に理解している。外出を察知した場合には、職員が同伴している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書、ヒヤリはっと報告書がきちんと整備され、ミーティング等で話し合い、再発防止に取り組んでいる。事故対応マニュアルがあり事故に対する学習もしているが、事故防止のマニュアルは作成していない。	・事故防止マニュアルの作成
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを作成し、緊急連絡体制等の整備をしている。応急手当等についての定期的な訓練は実施していない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回、消防署の協力を得て消火・避難訓練を実施している。ホームの外壁に緊急ベルが取り付けられ、非常時には地域の方が駆けつけてもらえるような協力体制が出来ている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は個人記録にファイルし、職員は薬の目的や副作用、用法や用量を理解している。服薬については夜勤者が準備し、職員は手渡しで服用するまで確認している。変化が生じた場合は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、うがいや歯磨きなど、個々に応じた支援をし、義歯は夜勤者が洗浄液に浸し消毒・保管をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	既存の配食材料サービスを昼食のみ利用しているので、一日の献立を参考にして栄養バランスが取れるように工夫している。食事量、水分量は日誌に記録し、確保できるよう支援している。栄養状態などは、定期的な血液検査でチェックしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルに基づいて、手洗いやうがいを励行し、流行時のマスクの着用などを実行している。インフルエンザの予防接種は職員全員が受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気、季節の花が飾られ、食堂に隣接した廊下はサンルームのようであり、その先には、ウッドデッキがあり、利用者は共用空間に座って、ホームや近隣の庭木や花などの外の景色が眺められ、快適に過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的に、居室は利用者が自由にベットやソファなどの馴染みの物を持ち込むようになっており、家族の写真や自分で作った作品を飾って、居心地よく過ごせるようにされている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームおいでませ
所在地	山口市大内御堀832-2
電話番号	083-925-3786
開設年月日	平成14年7月17日

【サービスの特徴】

長所 民家改修型のグループホームですので、利用者の方にとって以前の生活と違和感がなく、家庭的な雰囲気のなかで、安心して生活をされています。住宅街に位置しておりますので、地域の方との交流もあります。短所 小さな民家ですので大きな部屋が無いのが欠点です

【実施ユニットの概要】 (3月20日現在)

ユニットの名称				
ユニットの定員	6名			
ユニットの利用者数	6名	男性 1名	女性 5名	
	要介護1	0	要介護4	1
	要介護2	1	要介護5	0
	要介護3	4	要支援2	0
年齢構成	平均 91.3歳	最低 86歳	最高 96歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員に調査票をコピーし各々に渡し、後日みんなで話し合い記入しました
評価確定日	平成21年3月31日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		日常の現場で、具体的に指導していく。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえそうな日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の意味を理解し、選ばれるグループホームになるよう職員全員で勤めている。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	自己評価を示し、意見も求めているし、実行できることは直ちに取り組んでいる。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	山口市介護サービス連絡協議会に加入し、本部会・施設部会に参加し情報の提供や収集を行っている。研修会にも参加している。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	必要な人は現在いないが、制度については研修会に参加し、ミーティングなどで報告し、資料を回覧するなどして、共有するよう努めている	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法を理解し、利用者が虐待を受けることの無いように気を配っている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族の話しをよく聞き、ホームの説明も行ったうえで、理解・納得を得たうえで契約や退所を行っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に自由に意見を書いて入れることのできる意見箱を置いているが、苦情は今までに聞くことができていない。	意見や苦情を言いやすくするための工夫が必要
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月々の利用料の請求書を送るとき、出納帳と領収書、担当職員からの近況報告のお便り(写真入)を同封してお知らせしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	開示を希望されればいつでも開示できるし、こちらから必要時はお見せしている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に意見箱を置いて自由に意見を書いて入れることが出来る。苦情受付窓口、第三者委員や外部機関を分かりやすい場所に掲示している。家族の面会時に話すことで感じ取ったり、毎月出しているお便りでも意見を求めている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回のミーティングで職員の意見や提案を話し合い、反映させている		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者に体調不良者や事故があった場合には必要に応じて勤務者を増やしたり、時間帯の調整をしている。職員の勤務希望は可能な限りかなえている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	単独なので移動はないが、馴染みの職員の離職が無いよう、働きやすくするための努力をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員が出来るだけ多く研修に参加できるよう勧めている		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	30代～60代と幅広く、経験も多様で、それぞれの経験を活かし意見交換しながら対応している。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	連絡会に所属して勉強会や研修に参加し、ネットワーク作りをし、交流や情報交換をしている。お互いの施設見学なども行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に様子をお知らせしたり、相談しながらケアプランを作ったり、家族の支援が必要であればお願いしている。一部の家族は面会も少なく、あまり情報提供できていない。		面会の少ない家族にもっと働きかける
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人や家族のお互いの気持ちを伝えたり、代弁したり、面会時には会話がはずむよう雰囲気作りをしている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人が訪ねてこられたり、家族と馴染みの場所へ外出したりしている(理美容院など)		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	その日の状態に応じて、利用者同士がよい関係が持てるよう、座る位置を配慮したり、職員が間に入り雰囲気作りをしている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された後も家族の方に近況を伝え合ったり、入院された方のお見舞いや他施設に面会に行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で感じ取る努力をしている。カンファレンスなど職員間で話し合い、検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴や生活環境の情報を集め、本人や家族との会話の中から知り得た情報は書き足している。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の記録に記入し、職員間で共有し定期的に評価している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者本位になるよう、職員間では充分話し合っており、家族の要望を取り入れて作成しているが、なかなか意見を聞けない家族もある。つくった後報告するだけになっている。	作成の時点で家族に意見が聞けるようにしたい
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画の期間に応じて見直しは行なっている。それ以前に必要な場合は話し合い対応はしているが、計画の立て直しまではなかなか出来ていない。	変化があった時点で計画の立て直しをする
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録に記入し、評価の欄に気づきや結果など記入したり申し送ったりして、情報を共有している。介護計画の見直し時に役立てている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	防災訓練時に消防署の指導を受けている。また、地域の方のボランティアで定期的にあコーディオンの演奏に来てもらっている	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティアや見学の受け入れ、研修の受け入れも行っている。運営者は認知症予防教室の講師を引き受けている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	情報交換をしたり話し合いを行なって、最善の対応が出来るよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>排泄、入浴、更衣などは特にプライバシーに配慮し、ミーティングで話したり、日ごろから職員同士で注意しあっている。記録などは、人目に触れないようにしている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の思いを、出来るだけ聞きだしたり、感じ取るよう努め、自己決定できるよう支援している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>出来ること出来ないことを把握し、その人に合わせた働きかけをしている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一日の流れは大体決めているが、本人のペースや希望に沿うよう心がけている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>行き付けの理美容店へ、家族と出かけたり、職員がお連れしたりしている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と一緒に調理の下ごしらえ、後片付けなど出来る事をお願いしている。普段の会話の中から好みの物を聞きだして、献立に取り入れている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>10時、3時のお茶の時間には、好みの飲み物にしている。お酒、タバコなどは該当者が居ない。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表をつけ、排泄パターンを知り、声かけをしたり、気候やその人の状態により、紙パンツやパットの使用を最小限にとどめている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		利用者の誕生日に外出し、他利用者の家族も含めお祝いをする。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		研修を受け、内部研修したり、資料を見るなど、全員で理解に努めている。スピーチロックに関しては、自分では気づかないでしていることもあるので、普段からお互いに注意しあうように気をつけている。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		居室に鍵はなく、玄関や窓にも施錠はしていない。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		職員は常にアンテナを張って仕事をするよう普段から指導している、職員間で声を掛け合って、安全には配慮している。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		一人ひとりに合わせて対応している。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		マニュアルを作り、年2回の防災訓練を行っている。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		実際に事故や急変者が出たときや、日ごろから、全員で対応について話し合っており、マニュアルを作っているが、1年以内に訓練を行っていない。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		ヒヤリハットや、事故が発生したときは報告書を記入し、再発防止のための話し合いや、対策を講じ、再発防止に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関は鍵をかけず、外から目立つよう壁画や手作り人形を飾っている。通りから見える部屋でみんなで過ごすようにしている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関、居間、居室に季節の花を飾ったり、民家を改修しているので、縁側やデウッドキで季節の風や空気を感じることが出来る。食事は3食手作りしているので、調理の音や匂いを感じることができる。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2人かけのソファを数個置いており、必要に応じて移動し、利用者同士の相性やその日の状態により、座る位置を考えて居心地のよい空間を作るよう工夫している。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	好みのもの(人形や動物の写真)や家族の写真や手紙を飾ったり、鉢植えを置いたりして、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	普段から換気に気をつけ、利用者の状況に応じて、冷暖房機だけに頼らず、洋服やソックスひざ掛けなどで細やかに温度調節を行なっている。消臭剤の使用で臭い消しには気を使っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	普通の民家なので段差はあるが、手すりをつけ、利用者の身体機能に応じて、声かけをしたり介助しながら移動している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	コミュニケーションのとりにくい利用者に対しては、しっかりと顔を見ながら、ゆっくり話しかけるなど工夫し、出来ることに手を出しすぎないよう心がけている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ウッドデッキがあり、庭に下りなくても外の空気を味わえ、体操をしたり日向ぼっこが出来る。庭へ出てレクレーションをしたり、作業をしたりして過ごしている。季節の花を植え目でも楽しめるようにしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない